

# 日本OR学会賞

平成24年度学会賞のうち実施賞、普及賞、業績賞について、それぞれの候補を表彰委員会で選考の上、理事会で以下のとおり決定されました。

各賞は平成24年3月28日の春季研究発表会にて贈呈されました。

## 第36回実施賞

### ● 株式会社構造計画研究所

[選考理由]

株式会社構造計画研究所は、1992年に第16回OR学会実施賞を受賞したが、その後も、引き続き新たなORの試みを実施し、最近20年間、産業界や行政などさまざまな分野の問題解決に成果を上げている。

例えば、同社開発のマルチエージェントシミュレータにより、公共施設のアセットマネジメント、国際排出権取引など、定量的評価が困難であった問題をモデル化する仕組みを構築し、複雑な意思決定問題の分析を可能にした。また、最適化手法の活用により、通信、製造、ロジスティックス、サービス、防災など種々の分野に効率的方法を提供した。これらの成果を、本学会をはじめ多くの学会において研究発表会や機関誌などで発表している。さらに、2001年より、毎年、MASコンペティションを開催し、企業や大学の研究者、学生に、マルチエージェントシミュレーションの研究発表の場を提供するなど、学術への貢献も大きい。

以上の理由により、株式会社構造計画研究所に実施賞を授与することを決定した。

## 第37回普及賞

### ● 鈴木道夫氏（財団法人電力中央研究所）

[選考理由]

鈴木道夫氏は、財団法人電力中央研究所において、OR、データベース、意思決定支援システム、知識処理などを応用して、電力会社における業務処理に対して電子計算機を活用する研究を進められた。

また、ORと情報科学の人材の発掘にも積極的に行動し、多くの新人研究者を採用して、研究所におけるORと情報科学の研究体制を強化された。さらに、研究所内で部下・後進の指導にあたるだけでなく、電力

業界でORの実践に携っている人々を指導された。

電力中央研究所においては、研究者としてだけでなく、管理職・役員として、ORを駆使して、組織の運営を合理的なものにすることに尽力された。

本学会の運営に関しては、長年にわたり研究普及委員・研究普及理事、副会長の要職を務めるとともに、企業サロン企画委員、広報委員、広報委員長など学会組織の運営実務にも深く関与され、まさに学会の発展とともに歩んできたといっても過言でない。また、長年にわたって評議員・代議員も務められ、1995年にはフェローの称号を受けられた。

以上のような多大な功績により、同氏に対する普及賞の授与を決定した。

### ● 真鍋龍太郎氏（文教大学）

[選考理由]

真鍋龍太郎氏は、慶應義塾大学、名古屋工業大学、神戸商科大学、文教大学において、ORの研究・教育・普及に貢献された。

代表的な活動としては、本学会にAHP研究部会を設けられたほか、研究会・セミナー・コンサルティング活動を精力的に行われた。また、表計算ソフトウェアをORで活用することを提唱し、本学会研究発表会でチュートリアル・セッションをオーガナイズし、最適化やシミュレーションなどOR手法の活用に平易な道を示された。さらに、「ORリテラシー」という概念を提唱して、OR普及のための研究部会を立ち上げた。これらの活動のために、何冊かの啓蒙書を執筆・編集された。

本学会においては、機関誌編集委員、広告委員長・委員、企業サロン企画委員、表彰委員、理事、副会長など多数の役職を歴任されるとともに、支部活動の活性化にも貢献された。1995年にフェローの称号を受けておられる。

以上のような多大な功績により、同氏に対する普及

賞の授与を決定した。

### 第13回業績賞

#### ● 加藤直樹氏（京都大学）

[選考理由]

加藤直樹氏は京都大学大学院工学研究科数理工学専攻を修了後、神戸商科大学商経学部管理科学科の講師、助教授、教授を経て、京都大学大学院工学研究科建築学専攻の教授に就任されておられる。その間、数理計画法を中心に、ORにおいて多くの業績を上げられるとともに、教育、普及に関しても多くの業績を残しておられる。

研究面では、早くも1978年に、無向グラフにおける第K最短路を求める多項式時間アルゴリズムを提案したときから注目を集めた。現在の同氏の研究分野は、組合せ最適化、計算幾何学、建築システム最適化、最適資源配分、データマイニング、組合せ剛性理論など、ORの理論的な部分において多くの業績を残しており、発表論文数は120編以上にのぼる。これらの論文は、本学会論文誌をはじめとして、きわめてレベルの高い国際的な論文誌に掲載されている。近年では、大規模災害からの最速避難計画、組合せ剛性理論における分子構造予想 (Molecular Conjecture) の肯定的解決、不動産におけるビジネスデータマイニングなど、理論と応用の両面にわたって活躍されている。国際的な研究活動においては、複数回の在外研究をお

こなうとともに、数多くの海外の研究者との共著論文を執筆し、わが国のOR研究の国際化の推進に大いに貢献されている。

教育面においても大きな指導力を発揮され、氏の指導を受けた人々が各界で活躍している。また、著書も分担執筆を含め、15冊以上執筆するなど、普及面でも大きな功績を残されている。

本学会においては、1990年に文献賞を受賞され、1996年にはフェローの称号を受けられた。本学会の編集委員を担当され、2004年度から2年間、論文誌編集委員長（理事）を務められた。

また、他学会においても、OR関連の研究業績に対して表彰され、OR関連の国際的な学術誌の編集を担当し、国際会議のプログラム委員長・委員を務めておられる。とくに、関西支部においては、副支部長、支部長を務め、関西支部の発展に多大な貢献をされている。

以上のとおり、ORの研究・教育を通じ、本学会のために果たされた業績がきわめて顕著であることから、同氏に本年度の業績賞を授与することを決定した。

#### 【平成23年度表彰委員】

中森真理雄（委員長・東京農工大）、河合 一（鳥取大学）、栗田 治（慶應大学）、滝根哲哉（大阪大学）、半田恵一（(株)東芝）、松井知己（中央大学）、矢部 博（東京理科大学）、山下英明（首都大学東京）、山本芳嗣（筑波大学）、吉瀬章子（筑波大学）